

## 平成18年度 福祉体験作文コンクール優秀作品

愛知県社会福祉協議会の主催により、福祉活動やボランティア活動について児童・生徒から15編の福祉体験作文がよせられ、その結果、県内で24編の優秀作品が選ばれました。一宮市からも末広小学校1年の高木彩乃さんと大和東小学校5年の田中宏樹さんが入選されましたので、紹介します。

(平成18年度の学年です。)

### だいすきなばしょ

一宮市立末広小学校 一年

高木 彩乃

わたしは、がつりのとひなつじあるデイサービス、ふくじゅがだじゅです。やさしこおじこわやんやおばあちゃんがだいすきです。わたしは、おかあさんがそじのねじりとをしてるのと、なつやすみはまご用ねじつだじじきをました。ひょりきになつてしまつて手がうりかなづねてしまつたら、あるはなぐくくるまじすになつてしまつたり、ひなづなむひとがたくせんじます。

おさひじたら、「むひわ」

ところでおしほりとおちやとおかしをおだしこます。かた手しかうじかないひとにはねじりをひろげてあげたり、おかしのふくじをあけてあげたりします。

このあと、おばあちゃんやおじこわやんたかからせんせつのじのねはなし

をあせました。わいわきかくぱくたんがどくじんおとせでこえがもえてしまつてあかわやんをだつしてにげた」とや、おとうさんやおかあさんやおねえちゃんやじもつとがみんなしんでまつてあじ口なじてはかりいたおはなしをたべました。どのおばあちゃんもおじこわやんもじつむにじりにじりつてこます。

おかあさんがわたしとおねえちゃんに、

「ねじじゆつは、たくせんたくせん」わいおもじやかなしおもじをしてきたから、やさしくやさしくしてあげようね。おばあちゃんとおじこわやんのかなしいかおをみたくなりものね。」といいます。わたしは、おかあさんがしてるように、おじこわやんやおばあちゃんのお手々をつなぎます。せなかをさすつてあげます。やべると、おばあちゃんはわたしに、おんなじじとをしてくれます。これからも、たくせんわらんかかりせんせつのじのねはなし

### ぼくのおばあちゃん

一宮市立大和東小学校 五年

田中 宏樹

ぼくのおばあちゃんは七十六才で、まん性関節リウマチという病気です。四十三かぐいこのじののある日、朝起きたら、ひざの関節が立てないくらいいたくて、その日病院で検査をしてもらつたら、まん性関節リウマチになったことがわかりました。最初は足の関節だけだったけど、そのうち手の関節も曲がってきたそうです。おばあちゃんは右のひざの筋肉のねじりをしました。おじこわやんがなくなつてから十年ぶりに一人でがんばつて生

活してきました。

おばあちゃんが平成十六年三月にぼくの家にやってきました。それは骨はんとじの骨を骨折して動けなくなつたからです。一ヵ月ぐらいで骨折が治り自分の家にもどりました。だけど今度は首がいたくなり、またぼくの家に六月に来ました。それからずいとこつしました。

おばあちゃんはその年の十一月に首のねじりをしました。今はなんとか歩けますが、階だんは上れません。自分一人では服も着れません。だから、お父さんやお母さんやぼくや弟がいろ

いろ手伝つています。おばあちゃんにしていることは、おもに服を着せてボタンをはめてあげたり、くつやくつ下をはかせてあげたり、ドアを開けたり、おぜんを運んだりするのです。

今、おばあちゃんはデイサービスに週三回通つています。そこにはおばあちゃんよりも体が不自由な人もたくさんいます。歩けなくて車いすにのつている人もいるそうです。にんじんのうのうもいます。働いている人はデイサービスに通つている人みんなに優しくしてねじじ世話をしてみえるそつです。

おばあちゃんは自分でできぬじとせ自分でやつてこます。ぼくはおばあちゃんができないじとを手伝つてこます。

ぼくはできるだけ自分でやわらかとしているおばあちゃんはがんばつてこるなと思います。おばあちゃんはじつもにじにじしてこます。おばあちゃんに聞いたりぼくたかとじしょにじりせて幸せで、くよくよして週じゆゆつむにじにじり筑つて週じゆゆつむ方がことじました。ぼくもそのとおりだと思つました。

ぼくおばあちゃんに体は不自由でもじつもじりじりして長生きしてほし

いと思います。だから、これからもおばあちゃんができないじとを家族みんなで手伝つてこきたないと思つます。

おばあちゃんはその年の十一月に首のねじりをしました。今はなんとか歩けますが、階だんは上れません。自分一人では服も着れません。だから、お父さんやお母さんやぼくや弟がいろ

いろ手伝つています。おばあちゃんにしていることは、おもに服を着せてボタンをはめてあげたり、くつやくつ下をはかせてあげたり、ドアを開けたり、おせんを運んだりするのです。